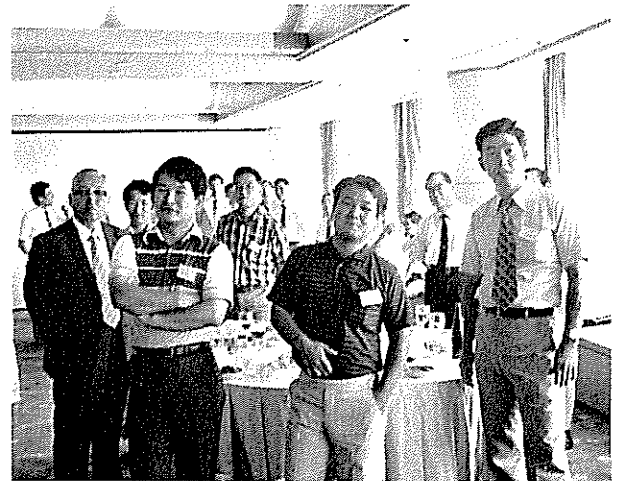


第7号
昭和61年11月1日

瑞山会会報

編集発行 / 名古屋市立大学経済学部同窓会・瑞山会編集部
名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1 (名古屋市立大学経済学部内)



昭和61年度の瑞山会通常総会は、8月31日(日)に名古屋国際センタービル「東天紅」の「東天の間」において、約80名の出席をえて開催された。

午前11時からの総会では、物故者黙とうに続き、役員改選、会長あいさつ、事業計画説明、決算報告、予算説明等が行われ、議事は全て滞りなく終了した。

午前11時40分からは、今春、新学部長に就任された松永嘉夫教授による記念講演で演題は「内外経済情勢と展望」。名市大の現況紹

介を交えての久しぶりの講義(?)に、学生時代をなつかしく思い出した同窓生も少なくなかったに違いない。

午後からは懇親会が、中華風立食パーティ形式で行われた。

次 第

- AM 10:30 代議員会
- 11:00 通常総会
- 11:40 講 演
- PM 0:40 懇親会

昭和61年度

通常総会議事報告

8月31日東天紅において、代議員会と通常総会が開かれ、各事項について承認可決されました。

昭和60年度 経過報告

瑞山会名簿の追録の発行、瑞山会会報の発行(第5号、第6号)の報告と事業部活動報告(61年5月25日ゴルフ、テニス大会)並びに新たに設立された瑞山会支部(名古屋市役所支部「瑞名会」)について報告がなされました。

昭和61年度 事業計画

本年は会員名簿第3号発行年に当たり、本年中に発行を予定していること、又会報についても年2回の定期発行を目差していることが報告されました。更に卒業祝賀会の助成と地域別職場別支部結成の助成についての考え方が示されました。

理事紹介 会則により選任されました。

会 長	栗野 泰次	1期	大山ゼミ
副 会 長	坂野 修	2期	山本ゼミ
"	山田 雅也	3期	松永ゼミ
"	中村 正治	5期	木村ゼミ
庶務部長	八木 得三	5期	山本ゼミ
副 "	渡辺 尚泰	3期	柴田ゼミ
庶務部	近藤 常夫	1期	平田ゼミ
"	高垣 茂寿	5期	山本ゼミ
"	伊藤 孝	6期	山本ゼミ
"	杉本 仁	8期	藤田ゼミ
"	荒深美和子	9期	木村ゼミ
"	蒲野 鎮	12期	宮川ゼミ
"	倉知 弘美	14期	松永ゼミ
"	木村 剛	17期	辻ゼミ
編集部長	手塚 祥郎	1期	牛嶋ゼミ
副 "	佐藤 克己	8期	岡崎ゼミ
編集部	榊原 茂	1期	松永ゼミ

編 集 部	上野 恒男	2期	大山ゼミ
"	多和田 真	4期	岡崎ゼミ
"	伊藤 幸雄	5期	妙見ゼミ
"	鈴木 正彦	7期	芝原ゼミ
"	田中 喜夫	7期	岡崎ゼミ
"	西尾 正人	13期	松永ゼミ
"	石川 雅子	13期	牛嶋ゼミ
"	松川 倫典	16期	塩見ゼミ
"	服部 篤典	18期	安藤ゼミ
事業部長	逸見 和弘	1期	松永ゼミ
"	都嶋忠比古	3期	山本ゼミ
事業部	杉浦 晴義	5期	松永ゼミ
"	木村 新作	5期	岩橋ゼミ
"	伊藤 政明	5期	柴田ゼミ
"	加藤 実	6期	宮川ゼミ
"	岡田美津雄	10期	中居ゼミ
"	康 聖一	15期	醍醐ゼミ
会計部長	松原 隆二	4期	中居ゼミ

理事会だより

- 6月19日(経済学部会議室)
- 1. 経済学部ゼミナール連絡協議会への第33回日本学生経済ゼミナール大会参加費補助について
- 2. 総会打合せ
- 3. 第8期決算報告、第9期予算案
- 4. 役員案について



会議活動報告

総 会	昭和60年 9月 5日
代議員会	昭和60年 9月 5日
理 事 会	昭和61年 1月22日
	昭和61年 3月27日

会計報告

収支計算書

収支予算書

収入の部

勘定科目	決算期	第8期(予算) (昭和60年度)	第8期(決算) (昭和60年度)	第9期(予算) (昭和61年度)
会費収入		1,990,000	2,258,000	1,890,000
(新入学生)		(1,990,000)	(1,990,000)	(1,890,000)
(会費)		(0)	(268,000)	(0)
会費外収入		700,000	641,423	800,000
基金積立金とりくずし		0	0	2,024,000
計		2,690,000	2,899,423	4,714,000

支出の部

勘定科目	決算期	第8期(予算)	第8期(決算)	第9期(予算)
名簿発行費引当金		600,000	600,000	△1,800,000
名簿追録発行費		150,000	270,000	0
会報発行費		100,000	148,000	300,000
総会費		80,000	95,400	850,000
新卒業生祝賀会費		200,000	200,000	200,000
通信費		620,000	792,370	1,290,000
事務運営費		440,000	413,630	824,000
名簿発行費		0	0	2,400,000
その他		500,000	206,986	650,000
(小計)		2,690,000	2,726,386	4,714,000
基金積立金		0	173,037	0
計		2,690,000	2,899,423	4,714,000

基金積立金明細

勘定科目	決算期	第8期	勘定科目	決算期	第8期
現金		0	定期預金		3,639,959
普通預金		686,142	割引信用債券		2,854,840
郵便振替口座		268,000	金銭信託		1,052,274
定額預金		1,000,000	貸付信託		6,000,000
計					15,501,215

(引当金・未払金1,810,630を含む)

内外経済情勢と展望

名古屋市立大学 経済学部長 松 永 嘉 夫

“円高と日本経済”ということ副題にして、私が日頃考えておりますこととお話ししたいと思います。

ご承知のように昨年の秋頃1ドルが240円位であったのが、どんどん円高となって、最近では150円台にまでなった。何故そのような円高になるかという、それは日本の貿易がペラボーに黒字であるからです。

日本の貿易の黒字額は、昭和60年度は616億ドルで、世界第二位の黒字国ですが、昭和59年度の黒字額456億ドルを相当上回っております。

昨年の今頃だったと思いますが、アメリカの国会議員の方々が日本に来られ、日本の貿易の黒字を、5年間のうちに半分に減らしてほしい、つまり西ドイツ並みに、という要請があった。しかしこれは大変なことです。確かに最近のような為替レートが定着すると、日本の貿易は壊滅的影響を受け、輸出はほとんどゼロになってしまうだろう。だが、5年間で黒字を半分に減らすには、最近の経済成長率約4%を一気に12%に加速して数年つ走りなければならず、大変困難なことです。

このような円高というのは、経済の論理からいうと極めておかしい動きであった。確かに貿易の黒字は大きいですが総合収支ではずっと赤字です。昭和60年度では、約160億ドルの赤字でありました。つまり、ドルの需要の方が供給を上回っているということで、そうであれば当然ドルの値段が上がるのが道理であり円高ドル安というのは、それと反対なのであります。今のこの円高レートがこのままずっと続くとは思えない、今のは仮そめの変な動きであって、やがては需給を反映した為替レートになってくるだろうと思います。

トータルの収支は赤字ということですが、

この頃少しおかしくなりかかっています。今年に入ってから、輸出額の水ぶくれ（輸出産業が輸出価格を引き上げることによって生ずる現象）の結果として、月に80億ドル、年にして約1,000億ドルの黒字になってきそうな気配です。昭和60年度では、貿易の黒字は616億で、長期資本収支の赤字は731億7,700万ドルで赤字が上回っていた。最近の動きからすると総合収支でも黒字に転ずる可能性がある。

そうになると、円高が円高を呼ぶ、というようなメカニズムがまともに働き出すようになる。本来円高というのは、貿易の黒字を調整するというで考えられていたが、このようになってくると、円高では円高を止めることはできません。外側から止めてくれないと止まらないかもしれないということです。昭和53年の円高の時は、アメリカ自身の利害の上からドル防衛策を打ち出したため円高は止まったけど、今回はアメリカはドル防衛をしなければならぬ状況ではないので、円高を止めてくれそうもない。そうになると、この先どうなるか分からない。昭和53年の時は、円高なのに景気がよくなったが、当時と比べて今日は内外情勢が全く異なるので、景気がよくなるかどうか極めて疑問だと思います。

懇 親 会

懇親会の出席者は、およそ80名と、少し寂しい感じがしたが、今までに無い試みが行われたせいか参加者の数のわりには、大層盛上がったものになった。

新しい試みの一つは、同窓生の家族の参加であり、もう一つは、抽選会を懇親会の余興の一つとして行ったことである。

懇親会は、来賓の紹介・祝辞、乾杯で始まり、あちらこちらで、あるいは同窓生と、あるいは先生を囲んでと、会話の花が咲いた。

抽選会が、その会話の花が今が盛りという時に行われた。

当選番号が発表されるたびに上がる喚声、

番号の書かれた紙を振りかざして前へ出てく
る人、賞品を受取った人の誇らしげな顔。

やがて、懇親会も終わる時がきた。

万歳三唱でその幕は閉じられた。

同窓生の皆さん、次回もぜひお誘い合せの
うえご出席ください。

—海外出張報告—

オーストラリアでの 研修生活を終えて

名古屋市立大学
経済学部助教授 多和田 真 (第4期生)

去年4月から今年3月にかけて約1年間、
豪州のニューサウスウェールズ (NSW) 大
学で経済理論の研究を行って来ました。この
大学は私が大学院時代のおよそ3年間を過ご
したところで、恩師のマレー・ケンプ教授も
御健在で、今回の滞在中にも研究、生活の両
面で大変お世話になりました。又、去年10月
には私が神戸商科大学在勤中に大変お世話に
なった上河泰男先生も約8ヶ月の予定で同大
学に来られ、私としては国際的に御活躍をし
ておられる先生方の下で研究に専念する事が
出来、大変貴重な体験となりました。

ケンプ教授は大変な親日家で、今までに数
多くの日本人学者をNSW大学に招いておら
れます、特に名市大からは、以前に木村吉男
教授や村田安雄教授 (現在関西大学) が訪ね
られています。又、NSW大学には現在、星
野助教授が研修中という事で、NSW大学は
名市大とは何かと縁のある大学の様です。



◀ケンプ教授の御家族と共に

名古屋市立大学経済学部の 昭和62年度

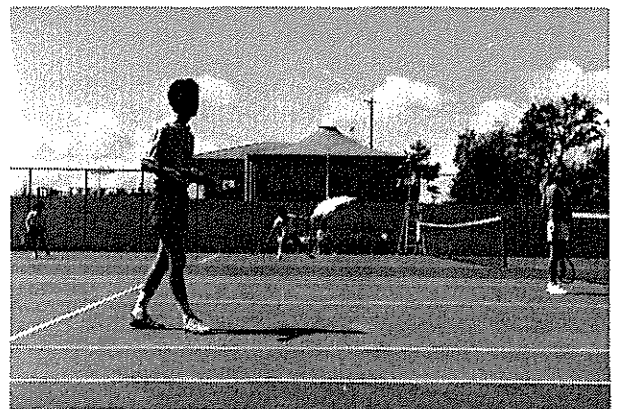
入学者選抜要項の概要

2段階選抜方式で、第1段階は共通1次試
験の成績で定員の7倍までを合格とする。第
2段階は、大学独自の学力試験 (第2次試験)
でこれは昭和62年3月5・6日に実施される。
最終決定は第1次と第2次の試験、調査書等
に基づく総合判定による。

特に1次と2次の合計点が半分以上の者に
対しては、特定の科目の高得点者や調査書の
評定平均値の平均点がある水準以上の者に対
して優先的取り扱いがなされる。

事業部だより

恒例となりました蓼科ゴルフ&テニスの会
が、9月20・21日に行われました。9月20日
は朝からの怪しげな空模様が、現地に近づく
につれ、いよいよ激しい雨にと変わり、当日
のテニスはお流れとなってしまいました。ア
ルコールを交えての楽しい夕食の際にも、「明
日は又温泉か」に一同惨めな納得顔。実は蓼
名荘から更に八ヶ岳方向へ登ると、武田信玄
のかくし湯があるのです。ところが意外や意
外、日曜日になると、朝は曇っていたもの、
みるみる青空が広がり、暑いほどの晴天に変
貌、テニスに、ゴルフにとエンジョイできま
した。夕方、三井の森G・C・のレストハウ
スに集まったビールのコップ片手の面々は、
皆日に焼けて真っ赤でした。



▲三井の森テニスコートにて

ゼミナール紹介

◆妙見ゼミ



▲経済学部玄関前にて

私達妙見ゼミは、現在4年生5名、3年生10名の合計15名（女子2名）で活動しています。

活動の中心となる毎週金曜日のゼミナールでは、日本経済の学習を行っています。しかし、他国との深いつながりもあるため、日本だけでなく、諸外国の政治や経済、歴史の学習も欠くことができません。ですから、広い視野をもち、物事をあらゆる角度から見ることのできる力が要求されます。

ゼミナールの時間は、毎週2時間ほど。決して長くはありません。この時間内は集中するという事で、妙見先生自ら“ゼミ時間内禁煙”を宣言され、皆もそれになっています。

レクリエーション活動は、それ程活発ではありませんが、今年の秋には、4年生の方々の就職が決定したということで、ゼミ旅行を計画しています。

ゼミ内の雰囲気もますます良くなり、毎週楽しく勉強しています。

◆木村ゼミ

昨年度わが木村ゼミは20周年を迎え、200人近い先輩方が社会に出て御活躍なさっているという伝統あるゼミです。また木村ゼミには木成会というOB会があり、毎年1月3日には木村ゼミの諸先輩方と縦のつながりを深める意味で親睦会を開いています。その時、最年長者の方にお会いすると木村ゼミの長さを感じられずにはおりません。

現在木村ゼミの在學生は3年生11名（女子2名）、4年生10名（女子2名）です。3年生は計量経済モデルの改善にいかにして人工知能を利用するかという時代の最先端を学んでおります。また希望者はコンピュータ・プログラミングをしています。4年生は少数に分かれて経済の外書を学んでいます。しかし木村教授の考えには、ただ経済学を学ぶだけでなくそれを通して日常における論理の組み立て方を学びとらせるという目的が含まれています。誇りある木村ゼミを汚すことなくいっそう発展していくよう努力をおしまないつもりです。



▲S60. 12 ゼミ旅行